

# 徳島市民病院だより



〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院  
Tel(088)622-5121(代表)

平成27年  
**4**号  
平成27年3月

## 徳島市民病院の理念 「思いやり・信頼・安心」

### 尿路結石の新しい治療法 (f-ITUL)について

徳島市民病院 泌尿器科主任医長 湊 淳

今回は、泌尿器科で尿路結石の新しい治療法であるf-ITUL (flexible ITUL) をご紹介したいと思います。

まず、尿路結石について説明します。腎盂・腎杯で形成された結石が尿管に下降し尿の通過障害をきたし痙攣発作と言われる腰背部痛が起こります。30〜60代の男性に多く、約90%以上はカルシウムを含むカルシウム結石です。その他尿酸結石、リン酸マグネシウムアンモニウム結石などがあります。尿路結石はメタボリックシンドロームの1つと考えられており、近年増加傾向にあります。10人に1人は経験するといわれる頻度の高い病気で、40%の割合で再発すると報告されています。



5mm以下の結石は自然排石が可能と考えられていますが、保存的加療にもかかわらず痛みを頻回に繰り返す場合、1〜2ヶ月の経過で結石の位置がかわらない場合、腎機能障害や尿路感染をきたす可能性が高い場合、また6mm以上の大きな結石は以下

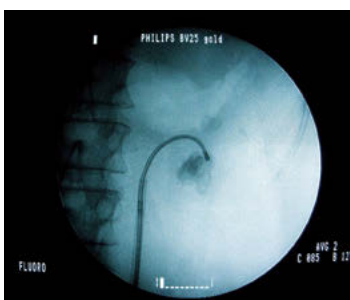
の外科的治療を行います。

尿路結石の治療には体外衝撃波で結石を破碎する方法(ESWL)と尿管ファイバースコープを用いて

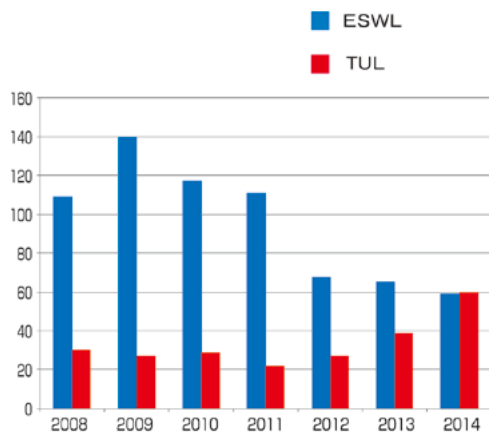
結石を破碎する方法(TUL)があります。ESWLは、レントゲンで結石に衝撃波の焦点を合わせて衝撃波を当てることによって結石を破碎する方法です。外来で施行できる簡便な治療ですが、1回で破碎されることは少なく複数回必要なケースや無効例もあります。また破碎された結石が体外にでるのに時間がかかったりします。

TULは、入院し全身麻酔下に内視鏡を挿入し結石を見ながら破碎する方法です。入院期間は3〜4日間。直接見ながら結石を破碎するので効果が分かり、体外に取り出すこともできます。内視鏡や破碎に用いるレーザー及びバスケットカテーテル(結石を捕獲する器具)の進歩により、軟性尿管ファイバースコープを使用し腎臓内部の結石まで碎石し摘出できるようにになりました。それがf-ITULです。

f-ITULの導入により手術回数の減少と治療期間の短縮が認められ、結石治療の効果が、確実性が向上しています。ただし結石が大きく1回で碎石できない場合や尿管が狭く内視鏡が挿入できない場合もあります。



当院における尿路結石の手術件数の内訳



す。その場合は尿管ステント(腎臓から膀胱まで通す細い管)を留置し複数回TULを行うこともあります。右図は当院での尿路結石治療の内訳です。ESWLの件数が減少しており、TULの件数が増えています。2014年はESWLが59件、TULが60件とTULが逆転しました。

全手術件数は減少しており、これは複数回治療を行うことが少なくなり治療の確実性が向上したことを示しています。治療選択としてTULが第一選択となることが多くなり、上部尿管結石や腎結石など従来ESWLの適応であった結石治療がf-ITULに変わりつつあることを示しています。

当院でも2013年秋からf-ITULを導入しており、少しずつ症例数も増えてきています。ただESWLの治療も選択肢としてあり、結石の状態、患者さんの希望などを考慮し、ニーズに合わせた結石治療を提供できるように努めています。

## ～臨床検査科・病理診断科へようこそ～

臨床検査科主任主査 先川久美子

臨床検査科は患者さんと接する機会が少ないので、「何をしているの?」と思われる方がいるかもしれません。

色々な検査を通じて、多くの患者さんと関わりがある私たちの仕事を紹介します。

### 臨床検査とは?

病気の診断、治療効果や身体の状態をみるために必要な検査のことです。

### 臨床検査科はどんなことをしているの?

検体検査室と生理検査室があります。

検体検査室では、血液・尿・喀痰・膿および穿刺や手術によって得られた検体を検査しています。生化学検査（肝臓機能・腎臓機能および生活習慣病等の検査）、血液検査（貧血・血液の凝固検査等）、一般検査（尿・便等の検査）、血清検査（肝炎・腫瘍マーカー等検査）、細菌検査（病原菌の検索等）、輸血検査（血液型検査等）などを行っています。正確な検査結果の提供のために、精度管理（データの正確度の確認）を行い、精度保証施設認定を取得しています。



生理検査室では、検査機器を使って患者さんの身体の構造や働きを調べています。項目としては、心電図、呼吸機能検査、足関節上腕血圧比、脳波、聴性

脳幹反応、神経伝導検査、骨密度、心臓・腹部・表在臓器・血管の超音波検査などがあります。また、耳鼻科外来では聴覚や平衡機能の検査、手術室では術中モニタリングを行っています。技師が直接患者様に接して検査を行っているため、わかりやすい説明を心がけています。

### 病理診断科とはどんなことをしているの?

病理診断科の仕事は大きく分けると組織検査、細胞検査があります。組織検査では手術などで採取した組織を処理し、顕微鏡で観察して、病理医が病気の診断を行っています。細胞検査では、直接細胞を採取して癌細胞を見つける子宮癌検診や、その他にも喀痰や尿などの細胞検査も行っています。細胞検査を行うには、細胞検査士資格が重要であり、その資格を取得するために日々努力しています。

### スタッフ一同よりメッセージ

患者さんに安心して検査を受けて頂けるように、迅速で正確なデータを提供できる事を、心がけています。検査に関してわからないことなどありましたら、お気軽に声をおかけ下さい。



「ここに来るとホッとする」ときどき化学療法室へ来られた患者さんがおっしゃいます。私は少し違和感を覚えるつも、褒められたような気分になります。

患者さんは自分の病状の説明や長い診察待ち時間を経て、まだこれから自分を苦しめる副作用のある治療を受けなければならぬ場所なのに「ホッとする」というのですから、不思議です。

化学療法法の副作用に味覚障害があります。症状は苦味が出てくる人、味を感じなくなる人、甘みがきつくなる人とまちまちです。ある日の治療室、若い女性の患者さんが治療中、「味覚を感じる間においしいものを食べたい。明日には味覚がなくなるから治療が終わったら何かおいしいものを食べて帰ろう」と旦那さんと相談していました。

「おいしい魚が食べたい」と言うのをスタッフと聞いて、ここがいいだの、あそここの店がいいだの知っているお店を提案し、お昼のランチの時間がわからない；旦那さんにスマートフォンで検索して店の場所とランチの時間を確認してもらったりしました。ちょうどそ

れが最後の治療日で、数日後入院し、手術を終えて退院の日、わざわざ（奥の院の化療室まで）挨拶に来てくれました。「無事に手術も終わりました。それとあのお店すごくおいしかったです。」と笑顔で報告してくれました。私の心はじんわり温かくなりました。

そういった患者さんとのやり取りの中で最近思うことは、患者さんは疾患のことや副作用のことなど病院で行われる（病院・病氣じみた）話ではなく、自分の生活に密着した何気ない話が出来たいと思っていること、その中で病気になるって困っていることに気づいてほしい、相談にのってほしいと思っっているのだと思います。そういう何気ない話を積み重ねていくことで、よりよい信頼関係が築けていくのだということを身に染みて感じています。

高齢で独居の患者さんや認知症の患者さんも増えていきます。なかなか思うように運ばないこともありますが、そういう患者さんにこそ、その人の生活や人生観に寄り添った関わりが重要であることも忘れてはならないと思っています。

4月から「がんセンター」が設置される予定です。化学療法室も運用方法など何らか変更される部分もあると思いますが、患者さんに「ホッとする」と感じてもらえる雰囲気は、そのまま持ち続けていきたいと思っています。



盛 佐知子

「ホッとする」  
化学療法室

がん化学療法看護認定看護師

# バルーンアート

毎月第2火曜日、夕方5時から、院内にてバルーンアート教室を開催しています（5階病棟看護師 松永郁子）。院内のスタッフが集まって、色々な形のバルーンを作成しています。中にはかなりの大作も。

院内イベントはもちろん、院外イベントからの要望も増えてきています。市民病院でのイベントにお越しの際には、是非バルーンアートを探してみてください。



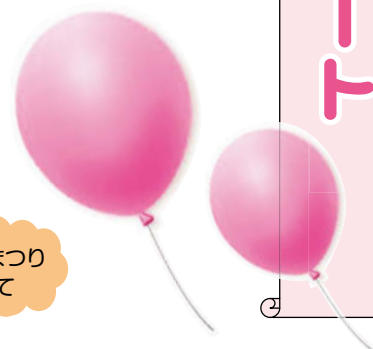
バルーンアート教室の様子



緩和ケアイベントにて



病院まつりにて



## 3版 研修医日記

### 「新しい年を迎えて」



臨床研修医 張 雄紀

厳しい寒さも段々と和らいできたこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。少し前に始まったばかりと感じていた研修医生活も、もうすぐ1年目を終えようとしています。内科に始まり、放射線科、外科とローテートさせていただき、たくさんのスタッフの方、患者さんと知り合うことが出来ました。色々とお悩んだりすることもありましたが、今の生活はとても充実しています。

さて、この研修医コラムも瀬戸先生、岡本先生、丸山先生と続き、早4回目となっています。今まではICLS体験談などの題材がありましたが、今回はフリーということで、何を書いたものかと非常に悩みました。考えた結果、今回のテーマは仕事と趣味についてということにします。

趣味といえば幅が広く、皆さんそれぞれ十人十色の趣味を持っているかと思います。私の趣味はといえば、今だと手品になるかと思います。学生時代にはドラム演奏がメインの趣味であったのですが、周囲にバンドを組む人などがいないと活動するのが難しく、現在はほぼ叩いておりません。（阿波踊りの小太鼓は楽しかったです）手品に関しては中学、高校時代より細々と続けており、なんだかんだで長く続けております。この趣味のおかげで、市民病院まつりや、リレーウォークなどの行事で披露の機会をいただけることが多かったです。普段の仕事ではあまり触れ合えない人とも触れ合えました。（右写真はリレーウォークの際の写真です）まだまだ若輩者ですが、社会人になってからはやはり

自由な時間も減ってきて趣味に使える時間も少なくなってきましたが、続けていてよかったと思えた瞬間でもありました。

仕事と趣味、両立していくのは非常に難しいこともあるかもしれません。しかし、その両立ができている人は少なくとも私の目からはとても生き生きと、仕事もバリバリとこなしているように見えます。高校時代の恩師から「一人前の社会人は仕事だけではなく、私生活も充実していなければいけない」と言われたことを働き始めてから改めて実感しました。

研修医生活も、もうすぐ2年目に突入しますが、初心を忘れず、仕事と趣味を出来る限り両立させて充実した研修医生活を送って行きたいと考えています。色々ご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、これからもよろしくお祈りします。



（次回予告）川島先生日記



みなさんヨロシク

医療ソーシャルワーカー  
松田 栄一



昨年11月から地域医療連携室で医療ソーシャルワーカーとして務めさせていただいております。

地域医療連携室では、入院されている方が次の病院や施設へ移る時のお手伝いや、ご自宅へ帰るときの利用できる福祉制度や介護サービスの紹介などをさせていただいています。

転院のお手伝いでは、第一希望の病院が満床でしかたなく他の病院へ移っていただくこともあります。ご希望通りの病院へ転院が決まり「よかった」と笑顔を見せていただけた時は、私もこの仕事につけてよかったとうれしくなります。

まだまだ知識・経験の乏しい私ですが、これからも、転院・退院される皆様が安心して療養し生活できるよう努めてまいります。どうぞよろしく願い申し上げます。

**山歩きの楽しみ**  
小さい頃から山歩きを楽しみとしている。最近では山ガールと称した若い女性の姿が見られ、女性の観点からの楽しみ方があるのだなと感じている。  
昨年の夏、梅雨の晴れ間に「三嶺」(三好市)を訪れた。日本200名山のひとつである。アクセスに少し時間がかかるのと歩行時間が長いこともあり、豊かな自然が残されていることで有名である。今回も登山者5人に出会っただけであり、俗化していないことも気に入っている。シコクフウロとコメツツジが見頃であった。  
山頂付近の池と避難小屋周辺の地形を特に気に入っている。南米ギアナ高地のテンプルマウンテンの様な地形と称したらよいだろうか。独特の地形がこの山をさらに魅力的にしている。

薬剤師 萬玉 隆男



お知らせコーナー

募集してます☆

当院を利用されている皆さんから「私の健康法」についての原稿を募集しています。600字程度で、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入し、ご応募ください。

また、病院や病気に関する事柄をテーマにした川柳や絵手紙も募っています。葉書(川柳はファクスでも可)でお送りください。絵手紙は送る相手名(愛称)やご関係とともに短いメッセージを添えてください。いずれも担当係で選考の上、「徳島市民病院だより」に順次掲載させていただきます。

送付・問い合わせ先：経営企画課広報管理室  
TEL(088)622-5121(内線2333)  
FAX(088)622-5313

臨時看護補助者の募集♡

市民病院では、臨時看護補助者を若干名(5名程度)募集します。採用予定日は随時で、日給は7,000～7,500円です。

(勤務時間等)

早出 7:00～15:30 遅出 12:30～21:00  
通常 8:30～17:00 深夜 23:00～07:30

申し込みは、随時受け付けています。  
問い合わせ先：管理課  
(088)622-5121(内線2323)



インフルエンザの流行が継続中です♠

徳島県内でインフルエンザの流行が継続中です。38カ所の定点医療機関から報告された1月12日～18日の患者数としては1,817人で、1週間当たりの患者数としては過去5年間で最多でした。年齢別では若年層が中心ですが、幅広い年齢層からも報告されています。

現在、AH3(香港)型ウイルスが多く検出されていますが、今度AH1型やB型ウイルスにより、流行は3月末まで続くと考えられます。以下の感染予防策を家族ぐるみで心がけましょう。



- ☑ 手洗い
- ☑ うがい
- ☑ 咳エチケットとしてのマスク着用



加湿器などで室内の湿度を保つことも効果的です。

問い合わせ先：感染対策室 (088)622-5121(内線2443)

がんサロン◇

市民病院では、がんと向き合う患者さんが自由に話し合える場所があります。参加してみませんか？

毎月第4木曜日 14:00～11階 患者支援センター

問い合わせ先：  
1階 がん相談支援センター  
(088)622-5121(内線2119)

